

まえがき

東日本大震災－東京圏・都会派女性たちのそのとき

東京で震度 5 強

2011 年 3 月 11 日(金)14 時 46 分に始まった宮城県三陸沖を震源とする巨大地震は、東北の太平洋沿岸ばかりでなく、北海道から千葉・神奈川県まで大きな影響を与えました。東京・千代田区では震度 5 強と言われ、大都市圏に突然の衝撃が走りました。

東京都の被害

死者数は、大きなニュースになった九段会館の天井崩落事故の二人を含め五人。また、転倒したり、モノが倒れたり、外壁やガラスでけがをして救急車で搬送された人が 195 人。さらに東京消防庁の発表によると、ストーブや熱帯魚水槽や白熱灯スタンドから 34 件の火災が発生。そのほか、墨田区など東部の 5 区に住宅や道路の液状化被害が発生。晴海では 1.5 メートルの津波を観測しました。そのほか、建造物の被害は膨大。

帰宅困難者の発生

とくに大方の思いもよらなかったのは、帰宅困難者の発生です。金曜日の午後というタイミングもあって、東京中心部から帰宅する人や車の混雑は大変なことになりました。途中、トイレも借りられず、コンビニで飲み物や食べ物を買おうとしても棚は空っぽ。ある主要道路に面した家で、不要の履きやすい靴を何足も家の前に並べておいたところ、30 分もしないうちに無くなったとか。休むに休めず歩き通しで、終夜歩いた人も大勢いました。施設を開放した民間の百貨店や大学などがあったものの、JRをはじめ多くの公的機関や商業施設の利用は難しかったようです。

東京在勤会社員の帰宅アンケートによると・・・

東京商工会議所が調べたところ、震災当日は 70%の人が自宅に帰ったとのこと。そのうち 57%が「徒歩」で、その平均所要時間は 2 時間 31 分だったそうです。もっとも、会社に災害時の行動計画がないと答えた人が 77%にも達したということでした。

なぜ東京圏でこの企画？

私自身はといえば、そのとき東京を離れて地方にいたので地震を体験できませんでした。東北の状況はテレビですぐわかりましたが、東京の状況は全くテレビに出ませんでした。後で人に訊くと千差万別。大きな地震が何回来たかということも、定かではありません。そこで、少数ですがアンケートでそのときの状況を伺うことにしました。特に、「どう感じたか」にも焦点をあてたいと思いました。また、問題点が拡がらないように、内容は**当日の地震の出来事**に絞りました。

サノックス代表 佐野陽子